

図書館だより



武雄高校 図書指導部
令和6年7月11日発行
第4号

◎「図書館だより」は classi 配信となりました！読んでくださいね！
今回の図書館だよりは2年3組図書委員佐々木健伍と前田閃海瑠が作成しました。

読書感想文におすすめの本

今回紹介する最初の3冊は、青少年読書感想文コンクールの課題図書に指定されている作品です。それぞれ図書館に複数冊準備しています。ぜひ読んでみてください！

『宙わたる教室』 著者【伊予原 新】(文藝春秋)



おすすめの理由

素行不良で全日制高校をつまみ出された人、七十代くらいの老人、現役のキャバクラ嬢など、さまざま事情を抱えた生徒が集まる都内の定時制高校で、「科学部」をつくり、「火星のクレーター」を再現する実験を始める。夢を追いかけることに遅いことなんてないとわかる一冊です。

『私の職場はサバンナです』 著者【太田 ゆか】(河出書房新社)



おすすめの理由

著者の太田ゆかさんが南アフリカ政府公認サファリガイドとして働いてきた経験を通して得た知識が詰め込まれた一冊です。将来サファリガイドとして働きたい人(いるかな?)だけでなく、そうでない人も新しい考え方を知ることができるチャンスなのでぜひ読んでみてください。

『優等生サバイバル』 著者【ファン・ヨンミ】(評論社)



おすすめの理由

首席で進学校に入学したジュノだが入学してからはトップをとれず思い悩む日々。そんな時同じサークルの女子に恋をしたり、友達とぶつかり合ったり…。忙しい高校生活を生き抜くコツがわかるかも。ハードな日々を送る皆さんにぴったりです。

『ブレイクスルー』 著者【松尾 健史】(現代書林)



おすすめの理由

バスケットに打ち込む相川秀平やその周りの人物の悩みを突破していく物語。挫折で悩んでいるそのあなた！ぜひ、読んでみてください。
自由図書にもお勧めです。



読書感想文の書き方



読書感想文を簡単に書くためには、構成を意識しましょう。最初に、本を読んだきっかけやそれまで自分が思っていたことを2割、読んだ本の簡単なあらすじを2割、本を読んだ感想を4割、最後にまとめを2割、この構成が書きやすくおすすめです…というのが一般的なマニュアルです。もちろんこの形を参考にしてもいい感想文が書けると思いますが、とらわれすぎずに自由に書くのもいいのではないのでしょうか。参考までに過去の優秀作品が校舎2階新聞閲覧コーナーに置いてありますので興味のある人は手にとってみてください！（ダメ！AI感想文 絶対！）



新着図書案内



『スカイツリーの花嫁花婿』 青柳碧人【著】（光文社）

スカイツリーの見える街で起きる、いくつかの偶然と小さな事件。誰かが塀とアパートの隙間に挟まり、昼キャバの営業中に人質事件が発生し、葬式を狙ったスリが出没。そんな最中に運命の出会いを果たし、幸せな結婚式を挙げるのは、誰と誰？名手が仕掛ける、笑い涙の「花嫁花婿当て」ミステリー。胸がきゅんと締め付けられる大人の恋の行方やいかに。



『SPRING』 恩田陸【著】（筑摩書房）



「俺は世界を戦慄せしめているか？」少年は八歳でバレエと出会い、十五歳で海を渡った。彼は求める、舞台の神を。憎しみと錯覚するほどに。ひとりの天才を巡る四つの spring。構想、執筆10年。待望のバレエ小説。

『おしごとそうだんセンター』 ヨシタケシンスケ【著】（集英社）



「しごと」ってなんだろう？地球に不時着した宇宙人がやってきたのは、ちょっと風変わりな職業相談所。宇宙人は相談所のスタッフと一緒に、この星で生きていくこと、働くことの意味について考えはじめる。誰もが避けて通れない「仕事」の意味を問い直し、明日をちょっと明るくする、すべての子どもと大人のためのヨシタケシンスケ版“ハローワーク”ストーリー！

『きみの10年分の涙』

いぬじゅん【著】（スターツ出版）

『人間であることをやめるな』

半藤一利【著】（講談社）

『樹木の教科書』

館野正樹【著】（筑摩書房）

『百年と一日』

柴咲友香【著】（筑摩書房）

『流出する日本人 海外移住の光と影』 大石奈々【著】（中央公論新社）

『ナチ親衛隊(SS)―「政治的エリート」たちの歴史と犯罪』

バスティアン・ハイン【著】（中央公論新社）

『英語の読み方 リスニング集』

北村一真【著】（中央公論新社）

『コモンの再生』

内田樹【著】（文藝春秋）

『精選女性随筆集 倉橋由美子』

倉橋由美子【著】（文藝春秋）

『チングス紀 10』

北方謙三【著】（集英社）

『楊令伝 12』

北方謙三【著】（集英社）

『金木犀とメテオラ』

安壇美緒【著】（集英社）

『俺たちの箱根駅伝（上）』 池井戸潤【著】（文藝春秋）

それは、ただのレースではない。2年連続で本選出場を逃した崖っぷちチーム、古豪・明誠学院。4年生の主将・隼斗にとって10月の予選会が最後の挑戦だ。故障を克服し、渾身の走りを見せる彼らに襲い掛かるのは「箱根の魔物」。隼斗は、明誠学院は箱根路を走ることができるのか？絶対に負けられない戦いが始まる。



『俺たちの箱根駅伝（下）』 池井戸潤【著】（文藝春秋）

217.1 km。伝説のレース、開幕。明誠学院駅伝チームを率いることになった、商社マンで伝説のOB・甲斐。彼が掲げた“規格外”の目標は“寄せ集め”チームのメンバーだけでなく、ライバルやマスコミも巻き込んでゆく。煌めくようなスター選手たちを前に、彼らが選んだ戦い方とは。青春とプライドを賭け走り出す。

